

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム「情報処理演習」 令和 6 年度自己点検・評価

文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」リテラシーレベル相当のプログラムに認定されている 1 年次配当全学共通卒業必修科目「情報処理演習（Ⅰ・Ⅱ）」について、令和 6 年度の自己点検・評価を行った。

授業の内容

従前どおり「自ら調べ、考える」スタンスを継承しつつ、下記の授業内容で実施した。

「情報処理演習Ⅰ」：問題解決パターンの会得、能動的学習、情報セキュリティ、ICT 利用の背景にあるモデルの理解、対象や処理の仕組みの理解を促す授業内容

「情報処理演習Ⅱ」：各学科の学生の専門分野に関する題材を用いて、統計学の基礎、データサイエンスおよび AI 利活用の理解を促す授業内容

学生アンケート結果による点検・評価

担当教員が実施した履修者へのアンケートには、

・この授業を受けたことによって、情報の知識や情報の漏洩の危険性などを学習することができて楽しかった。

・資料も専門用語だけで終わらず、初心者の人にも理解しやすいよう工夫して授業資料が作られていたので、理解しながら、積極的に取り組むことができた。

・パソコンについて便利な知識やこれから社会に出て必要な知識を学べたのが良かった。

など前向きなコメントが多く寄せられた。表層的な知識やスキルの獲得に止まらず、その背景への理解、問題解決能力の育成ができたと考える。

各学科の取り組みによる点検・評価

各学科の専門科目の学びにおいて、「情報処理演習」で培ったスキルや思考は、授業中や授業後のまとめ、グループワークやプレゼンテーションにおいて活用されている。臨床現場、教育現場での学外実習、自治体や産業界と連携したまちづくりやメニュー開発等の活動に際しても同様である。

学外からの視点による点検・評価

学外実習や、正課外活動を含む自治体・産業界との連携諸活動において、指導者や担当者からの意見や事後評価により、学生自身の知識やスキルの振り返り、以後の活動への動機づけ、キャリア意識の涵養に繋がっている。また、各学生にノート PC が貸与されていることは諸活動の準備や記録の即時

的な対応にも相応のアドバンテージがある。さらに、「情報処理演習Ⅱ」において技術を修得し、作成した売り上げ予測 AI をアルバイト先で活用し、実際にその予測結果を基にした仕入れや人員配置(シフト)を行っているという事例が担当教員のもとへ報告されるなど、本プログラムにおける学びが正課外でも様々な場面で生かされている様子がうかがわれる。

以上、教育推進室において点検・評価を行い、次年度以降も適宜授業方法やシラバス内容の改善を継続的に行っていくことを確認した。

以上